

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-A-5		更新日	2025/1/31
サイト名		国引き神話の景観一望の古刹～華蔵寺 ^{こさつ けぞうじ}			
基本情報	区分	☒ 有形 ☐ 無形 ☐ その他			
	所在地	松江市枕木町			
	指定別				
	種別				
	指定／登録年月日				
	管理団体／モニタリング	華蔵寺			
	周辺施設／アクセス	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☒ 駐車場（ 50台 ）			
留意点					
サイトの解説	歴史・文化	華蔵寺は臨済宗南禅寺派の末寺で、標高453mの枕木山の頂上に位置する禅宗の古刹である。麓の巴生町（おうちょう）を通る国道431号から4キロほど車で枕木山を上がると華蔵寺参道に着く。車を降りて参道を登るとまず仁王門がある。ここの金剛力士像は、祭礼の時には二歳児の無事成長を祈る「またくぐり」の習わしがある。さらに進むと石造りでは大きさ日本一といわれる不動明王像が聳（そび）え、その先には亀山法皇の病気を癒したという杉井の霊水が岩間から湧き出している。 そこから間も無く、樹齢数百年の大杉並木や多くの老樹の中に、山門、開山堂、本堂などが建立されている。本尊は釈迦牟尼佛（しゃかむにぶつ）で、薬師堂には重要文化財の薬師如来像（やくしにょらいぞう）を奉安し、両脇侍には、開基智元上人が岩窟にてはじめて礼拝されたと伝わる霊像・日光菩薩、月光菩薩が安置されている。薬師堂の東にある第一展望台から、眼下に大根島を浮かべた中海、弓ヶ浜、遠くに大山を望む景観は雄大で、山陰一の絶景である。また、本堂東の第二展望台からは、はるか隠岐の島が遠望できる。			
	地形・地質、生物・生態等	華蔵寺は、流紋岩でできた枕木山の山頂に近い南斜面にあって、境内には展望台が設けられている。枕木山のある島根半島東部の北山山系の南は、侵食に弱い泥岩層の発達や東西方向の断層があるため、地形が急峻になっている。このような地形が、宍道湖中海低地帯、弓ヶ浜半島、中国山地を臨む地形の学習や観光スポットとして価値を高めている。 華蔵寺は松江城の鬼門にあたり、祈願所として歴代藩主によって外護（げご）された。現在の建物は、江戸期のものとされている。			
写真・図等					
	山門		参道入口		
参考文献					